

## 平成30年度 明石市総合教育会議（議事要旨）

日 時	2018年(平成30年)5月11日（金） 15:30～16:35
場 所	明石市役所議会棟 第3委員会室
出席者	泉房穂市長、公家裕教育長、井筒典久教育委員、川本まり子教育委員、栗岡誠司教育委員、伊賀文計教育委員
協議・調整事項	(1)中学校給食の実施について (2)教職員研修の充実について (3)コミュニティ・スクールの推進について (4)中学校の部活動のあり方について (5)学校における働き方改革の推進について (6)小中学校の学用品購入の負担軽減について (7)その他
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ <b>資料1</b> 中学校給食の実施について</li> <li>・ <b>参考資料1</b> 兵庫県下各市の中学校給食の状況</li> <li>・ <b>資料2</b> 教職員研修の充実について</li> <li>・ <b>参考資料2</b> 平成30年度 第3回初任者研修 研修ノート</li> <li>・ <b>資料3</b> コミュニティ・スクールの推進について</li> <li>・ <b>参考資料3</b> コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について</li> <li>・ <b>資料4</b> 中学校の部活動のあり方について</li> <li>・ <b>参考資料4</b> 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン骨子（案）</li> <li>・ <b>資料5</b> 学校における働き方改革の推進について</li> <li>・ <b>参考資料5</b> 学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（通知）</li> <li>・ <b>資料6</b> 小中学校の学用品購入の負担軽減について</li> <li>・ <b>参考資料6</b> 平成28年度 保護者徴収諸費実績（明石市平均）</li> </ul>
事務局	政策局政策室

### 1 開 会

（市長）

- ・今回は、明石市が中核市に移行して初めての総合教育会議であり、教職員の研修や中学校給食等も始まった。忌憚のない意見交換をお願いしたい。

### 2 議 事

#### (1) 中学校給食の実施について

- ・教育委員会から、**資料1**に基づき、中学校給食の実施について説明。

（市長）

- ・中学校給食については、早い段階から準備にご尽力いただき、この間のご苦勞に対し感謝

申し上げたい。モデル校実施を踏まえて、スムーズに全校実施することができた。

- ・明石市の温かい給食は、誇りとなる事業であり、子育て、子どもにやさしい象徴的な取組だと理解している。

(教育委員会)

- ・衣川中学校で給食の状況を拝見したが、中学生が友達のために働く姿は良いと思った。
- ・朝霧中学校では、生徒からはおいしいという良好な感想であった。
- ・魚住東中学校で、試食したところ本当に温かい給食が提供されていた。
- ・第一印象としては大成功だと思う。
- ・今まで十分な弁当が用意できなかった生徒も、きちんと昼食がとれるようになり良かった。ただ、運動部の生徒には、ボリュームが足りないのではないかと感じた。
- ・先生方がミーティングを行い、配膳をいかに早くできるか改善に取り組んでいた。
- ・学校現場の協力がなくては、時間内に給食を食べることが難しい。働き方改革として、先生方の負担を減らす何らかの手立てが必要である。今後、役割を子どもたちにどう返していくか検討が必要である。
- ・エレベーターがない学校では、給食を運ぶのがしんどいという感想が出ていた。4時間目の授業との関係で、いかにスムーズに配膳ができるかが課題である。
- ・用意から片付けまで分単位のスケジュールとなっており、もう少し食べる時間があれば良いと感じた。エレベーターが付くと準備時間が短縮でき、5分か10分程度ゆとりが持てると思う。

(市長)

- ・いい形でスタートできたと考えている。見えてきた課題は、随時改善をお願いしたい。
- ・給食についての問題意識をお伝えしておきたい。明石市では、給食センターが設置されたことで、子どもだけでなく、高齢者に対しても、提供できるのではないかと考えており、今年度からは高齢者にも温かい給食を提供する事業をモデル的に開始する予定である。
- ・食というものについて、行政が責任を持つ時代が始まったと感じている。食は個々や家庭の問題と捉えられがちだが、大きな時代状況の変化の中で、食に関しても行政が関わり、心のこもった温かい給食を通して、食育や地産地消につなげていくことが可能である。
- ・明石市として一層、関わる場を増やしていくことが必要であると感じており、朝ご飯が食べられない子どもや夏休みの長期休業期間への対応など、給食をどのように活用していくかが今後のテーマである。
- ・不登校など様々な事情のある子どもについても、学校が遠い存在の場合に、しっかりと栄養が行き届いているかという問題意識もある。
- ・すぐにできることが多いわけではないが、できる限り子どもたちに寄り添って、すべての子どもたちに愛情と栄養が行き届くような、そんな明石になれば良いと思う。
- ・子どもたちだけでなく、高齢者や事情のある方に対しても、行政が可能な限り責任を果た

していきたいという思いである。

## (2) 教職員研修の充実について

- ・教育委員会から、**資料2**に基づき、教職員研修の充実について説明。

(市長)

- ・教職員の研修は中核市への移行により、新たに一緒に取り組むテーマであり、大変重要だと思っている。
- ・明石市で教職員の研修を実施することにより、子どもたちにとってプラスになる点は、市長事務部局と協力して総合的な福祉サービスのノウハウを活用できることである。
- ・これまでは、学校に來れなくなった子どもに対して、学校現場で先生たちが様々なケースに直面することになり、もどかしい思いをしたのではないか。例えば、その子どもに障害的な要素があれば、障害福祉サービスと合わせて対応していくことが必要である。また、生活に苦勞されている家庭であれば、家庭を支える支援が必要であったり、ご両親が精神的にしんどい状況である場合などには、子どもと向き合うだけでは問題解決は難しい。
- ・保健所が設置され、精神保健分野についても、一緒に対応していくことが可能である。
- ・学校現場と福祉サービスを情報共有化することにより、学校現場と行政が連携して対応でき、子どもたちにとってより望ましい、環境の改善がなされると思っている。
- ・一年後に、明石市は、児童相談所を設置する。子どもと極めて長い時間を接するのが学校現場であるので、一緒に課題を認識し、共に協力し合っこそ、実効性の高い対応ができると思っている。
- ・まずは、研修を通して情報を共有化し、一緒にできることを増やしていくことが必要である。学校の教育について、子どもと向き合っている学校現場こそが重要であり、総合的な福祉サービスでもって、サポートしていきたい。

## (3) コミュニティ・スクールの推進について

- ・教育委員会から、**資料3**に基づき、コミュニティ・スクールの推進について説明。

(市長)

- ・PTA活動について、負担が大きいので、何とかしてほしいという意見が市長への意見箱に数多く寄せられている。
- ・基本的には地域の学校的な発想の中で、PTA活動もPTCAというように地域と一緒に考えていくべきである。
- ・時代状況の変化により、現実問題として、親も子どもも学校も忙しく、親がいつでも時間を自由に使える状況ではなくなってきている中で、PTA活動のあり方は悩ましいと思う。
- ・明石市においては、まちづくり協議会という形で、地域のために時間とエネルギーをお使

いただける方々も増えてきている状況の中で、これまで親と先生が協力するにとどまっていたものを、もう少し地域に広げて、地域の更なる協力を得ながら、PTA活動の見直しも可能であれば、負担軽減を図っていけないかと考えている。

- ・PTA役員が負担となり、学校を転校しようかという声をいただくと忍びない。PTA活動の縮小を考えるのではなく、コミュニティ・スクール化を進めて、地域に支えていただける方法を検討していくことも一案かと考えている。
- ・PTAの趣旨として、子どもと先生だけでなく、保護者、地域と一緒に取り組むことは良いと思う。ただ、特定の方に過度の負担が集中することは望ましくない。
- ・地域で時間があり、子どもに対して関わってもいいという高齢者の方々もいるので、いい形で整理できるように、教育委員会でもご検討いただきたい。

#### (教育委員会)

- ・確かに、PTA活動の業務量が多いと感じる。家庭が回らないという状況になると本末転倒である。負担にならない程度に業務を削減するか、地域の方にお手伝いしていただくように変えていくのは今の時代仕方がない。
- ・協力したいという気持ちの保護者も多くいるので、そういう方が中心になることも一つであると考え。考え方は、地域それぞれなので、一律にやめるとか続けるべきだとは言えないが、議論していくべきである。
- ・PTA活動は、子育てが忙しい中で活動をしなければならず負担は大きいと思われる。
- ・働く女性が増えている状況で、かつてのような専業主婦の存在を前提とした活動はできない。働いている女性の方にPTA活動に参加いただくことで、開催の時間、頻度の見直しや活動内容の精査が進めばいいと考える。
- ・松が丘地区で、地域との取り組みを進めているので、モデルとなれば、紹介していきたい。
- ・PTA活動の負担であるが、高校では専属の事務員を雇っており、保護者の負担が少ない。また、会議は夜に実施するなど、仕事をしている保護者に配慮している。
- ・小中学校でもPTA会費から事務員を雇ってはどうかとの提案が時々あるが、生徒数が多いと雇用することも可能だが、少ないと対応できない。地域ボランティアや地域で負担することも検討していかなければならない。

#### (市長)

- ・現状として、自分の子どもを見てもらっているので、PTA活動は断りにくく、任意でありながら、実質強制となっている。
- ・地域に行くと本当にPTAに関する意見が多く、共働きが増えている中で 代替策や地域との連携を検討していく必要がある。
- ・教育委員会でもご検討いただきたい。

#### (4) 中学校の部活動のあり方について 及び (5) 学校における働き方改革の推進について

- ・教育委員会から、**資料4**に基づき、中学校の部活動のあり方について、**資料5**に基づき、学校における働き方改革の推進について説明。

(教育委員会)

- ・ノ一部活デーにより、子どもたちの学力向上に良い影響があればよい。
- ・部活動と働き方改革には生徒側と先生側の二つの側面がある。生徒については、部活の無い日をどのように過ごすのかということを検討しなければいけない。先生については、部活動の顧問になると素人でも取り組まなければならない。子どもたちと同じ目標に向かって一緒に頑張って結果を出すことは、非常に達成感があり教育効果も高い面もあるが、結果として過剰な負担となっている場合もある。単純に部活動を縮小すればいいのではなく、今後、明石で良いモデルができればと思う。
- ・部活動が無いことできちんと休めればいいが、コンビニでうろうろするなど、別の問題が出てくるのではないかと心配している。家庭も学校に多くの部分を任せがちなので、部活動が無い日が増えると困る家庭も出てくるかもしれない。
- ・先生は、負担が大きくなっていることから、事務員を増やすことや、部活動に外部指導員を導入することを希望する方が多いと思う。費用がかかるが、校務支援システムを導入していただきたい。
- ・子どもの数が減り、学校によっては好きな部活動に入れたい子がいる。また、指導ができる先生が少なく、手探りで指導している状況である。中学校区のスポーツクラブや地域の指導者の活用のほか、複数校が合同で部活動を実施することにより、選択肢が増えるのではないか。
- ・家庭の教育力という問題もある。学校が子どもを取り込みすぎており、もっと家庭に戻すべきである。子どもが家庭でぼんやりする時間も大事である。自分の時間をどのように使うのかを自分で考えることが大切である。

(市長)

- ・様々な意見があるテーマである。時代は変化し、昔の当たり前が今の当たり前ではない。学校で、子どもたちが部活動を選べなくなっているが、その部活動は先生方が努力しての現状である。見直すべき時期が来ているとの認識である。
- ・中国では、学校は勉強を教えるところであり、部活動がない。本来、先生は授業を行い、子どもと向き合い、相談に応じることが業務であり、部活動で先生が疲弊するとなると本末転倒である。
- ・本来の教科指導に影響が出ないよう、他自治体の事例を参考とし、明石市でも整理を始めるべきであり、一緒に検討していきたい。

## (6) 小中学校の学用品購入の負担軽減について

- ・教育委員会から、**資料6**に基づき、小中学校の学用品購入の負担軽減について説明。

(市長)

- ・県市長会で、ある市長から通学用に8万円の自転車を購入させている学校があるとの話があり、議論する機会があった。
- ・問題は、地域や学校ごとに学用品の取扱がバラバラであり、ルール化や透明化ができてないことである。学校現場での判断であると思うが、親は従わざるを得ない中で、本当に必要なのかが問題意識としてある。
- ・明石市でも現状を確認して、保護者の負担軽減や合理的な対応を図りながら、ルール化や透明化を検討していくべきである。
- ・学用品の選別は、教育委員会ではなく、学校長の裁量であると聞いている。歴史的経緯や地域性もあると思うが、明石市では対応が極端に異なる事例があるのか。

(教育委員会)

- ・ネットで値段を調べることができ、類似の学用品と比べられる時代である。
- ・制服に関しては、貧富の差が出ない趣旨で導入していることもあるが、教育委員会としても検討していく必要があると考える。
- ・平成29年6月に調査を行ったが、制服の有無による違いはあるが、それほど極端に取扱いが異なることはない。柔軟な形で学用品を選ぶことができれば負担軽減は可能であると考えている。

## (7) その他

(市長)

- ・明石は良いまちだが、学力が低いと言われることがある。過去の総合選抜のイメージなのかもしれない。
- ・学校現場も頑張っているので、私は明石市の学力は低くないと反論している。まちのイメージがマイナスとなり、本当にもったいないと思う。
- ・基礎的な学力は必要だと考えるが、勉強だけが全てではないので、子どもがいろいろな選択ができる環境が大切であると考えている。

(教育委員会)

- ・小中学校では全国平均より上回っている状況である。中学校は特に上回っている。
- ・全国平均を上回っている現状も公表しており、低いと言われる理由はないと考えている。
- ・高校について、姫路福崎学区や神戸第3学区では、単独選抜を導入したことで競争性が働き、数値面での学力が高いとのイメージとなったが、総合選抜が長かった明石は競争性が

働きにくく、学力が低いというイメージとなっているが実際は違う。この「イメージ」を覆すためには、大きな実績が必要である。

(教育委員会)

- ・制服に関して、男子はズボン、女子はスカートになっているが、女性もズボンを着用する機会が増えており、選択制にしてもいいのではないかと考えている。

### 3 閉 会

(市長)

- ・情報共有の場として、総合教育会議の頻度を増やしていくことも検討していきたい。今後いろいろな形で意見交換を行っていきたい。

以上